



クライアントレス SSL VPN の概要

- [クライアントレス SSL VPN の概要 \(1 ページ\)](#)
- [クライアントレス SSL VPN の前提条件 \(2 ページ\)](#)
- [クライアントレス SSL VPN に関する注意事項と制約事項 \(2 ページ\)](#)
- [クライアントレス SSL VPN のライセンス \(3 ページ\)](#)

クライアントレス SSL VPN の概要

クライアントレス SSL VPN を使用すると、エンドユーザは SSL 対応 Web ブラウザを使用して、任意の場所から社内ネットワークのリソースに安全にアクセスできます。ユーザは、まず、クライアントレス SSL VPN ゲートウェイで認証し、事前設定されたネットワーク リソースにアクセスできるようにします。



- (注) クライアントレス SSL VPN がイネーブルになっている場合、セキュリティコンテキスト（ファイアウォール マルチモードとも呼ばれる）とアクティブ/アクティブ ステートフル フェールオーバーはサポートされません。

クライアントレス SSL VPN は、ソフトウェアまたはハードウェア クライアントを必要とせず、Web ブラウザを使用して ASA へのセキュアなリモート アクセス VPN トンネルを作成します。HTTP 経由でインターネットに接続できるほとんどのデバイスから、幅広い Web リソースと、Web 対応およびレガシー アプリケーションに安全かつ簡単にアクセスできます。次の内容で構成されています。

- 内部 Web サイト
- Web 対応アプリケーション
- NT/Active Directory ファイル共有
- Microsoft Outlook Web Access Exchange Server 2000、2003、2007、および 2013。
- Microsoft Web App to Exchange Server 2010 (8.4(2) 以降において)

- Application Access (他の TCP ベースのアプリケーションにアクセスするためのスマートトンネルまたはポート転送)

クライアントレス SSL VPN は Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルとその後継の Transport Layer Security (SSL/TLS1) を使用し、内部サーバとして設定されている特定のサポート対象内部リソースと、リモートユーザとの間にセキュアな接続を実現します。ASA はプロキシで処理する必要がある接続を認識し、HTTP サーバは認証サブシステムと対話してユーザを認証します。

ネットワーク管理者は、クライアントレス SSL VPN セッションのユーザに対してグループ単位でリソースへのアクセスを提供します。ユーザは、内部ネットワーク上のリソースに直接アクセスすることはできません。

クライアントレス SSL VPN の前提条件

ASA 上のクライアントレス SSL VPN でサポートされるプラットフォームとブラウザについては、『[サポート対象の VPN プラットフォーム、Cisco ASA 5500 シリーズ](#)』を参照してください。

クライアントレス SSL VPN に関する注意事項と制約事項

- ActiveX ページでは、ActiveX リレーをイネーブルにするか、関連するグループポリシーに **activex-relay** を入力しておく必要があります。あるいは、スマートトンネルリストをポリシーに割り当て、エンドポイント上のブラウザプロキシ例外リストにプロキシが指定されている場合、ユーザはそのリストに「shutdown.webvpn.relay.」エントリを追加する必要があります。
- ASA では、Windows 7、Vista、Internet Explorer 8～10、Mac OS X、および Linux から Windows 共有 (CIFS) Web フォルダへのクライアントレスアクセスはサポートされていません。
- DoD Common Access Card および SmartCard を含む証明書認証は、Safari キーチェーンだけで動作します。
- クライアントレス接続用に信頼できる証明書をインストールしても、クライアントには信頼できない証明書の警告が表示されることがあります。
- ASA は、クライアントレス SSL VPN 接続用の DSA 証明書をサポートしません。RSA 証明書はサポートされます。
- 一部のドメインベースのセキュリティ製品には、ASA から送信された要求を超える要件があります。
- コンフィギュレーション制御の検査機能およびモジュラポリシーフレームワークにおけるその他の検査機能はサポートされません。
- NAT および PAT はクライアントに適用可能ではありません。

- クライアントレス SSL VPN の一部のコンポーネントには、Java Runtime Environment (JRE) が必要です。Mac OS X v10.7 以降では、Java はデフォルトでインストールされません。Mac OS X での Java のインストール方法については、http://java.com/en/download/faq/java_mac.xml を参照してください。
- クライアントレス VPN セッションを開始すると、RADIUS アカウンティング開始メッセージが生成されます。クライアントレス VPN セッションにはアドレスが割り当てられないため、開始メッセージには Framed-IP-Address が含まれません。レイヤ 3 VPN 接続がクライアントレスポータルページから順番に開始されるとアドレスが割り当てられ、暫定アップデート アカウンティング メッセージで RADIUS サーバに報告されます。weblaunch 機能を使用してレイヤ 3 VPN トンネルが確立される場合、同様の RADIUS の動作が期待できます。この状況では、ユーザが認証された後、レイヤ 3 トンネルが確立される前にアカウンティング開始メッセージがフレーム化 IP アドレスなしで送信されます。レイヤ 3 トンネルが確立されると、この開始メッセージに暫定アップデートメッセージが続きます。

クライアントレスポータル用に設定された複数のグループポリシーがある場合は、ログインページのドロップダウンに表示されます。リストにある最初のグループポリシーで証明書が必要な場合は、ユーザはマッチング証明書が必要です。グループポリシーの一部が証明書を使用しない場合、非証明書ポリシーを最初に表示するには、リストを設定します。また、「0-Select-a-group」の名前でダミーグループポリシーを作成することもできます。



ヒント グループポリシーの名前をアルファベット順に付けることで、最初に表示されるポリシーを制御できます。また、ポリシーの先頭に数字を付けることもできます。たとえば、1-AAA、2-Certificate とします。

クライアントレス SSL VPN のライセンス

AnyConnect セキュア モビリティ クライアントを使用するには、AnyConnect Plus および Apex ライセンスを購入する必要があります。必要なライセンスは、使用する予定の AnyConnect VPN Client および Secure Mobility の機能と、サポートするセッションの数によって異なります。これらのユーザベースのライセンスには、一般的な BYOD のトレンドに合わせたサポートとソフトウェア更新へのアクセスが含まれます。

AnyConnect 4.4 ライセンスは、ASA (および ISR、CSR、ASR) で使用され、また、Identity Services Engine (ISE)、クラウド Web セキュリティ (CWS)、Web セキュリティアプライアンス (WSA) などの非 VPN ヘッドエンドでも使用されます。ヘッドエンドに関係なく一貫したモデルが使用されるため、ヘッドエンドの移行が発生した場合も影響はありません。

AnyConnect のライセンス モデルについての詳細は、<http://www.cisco.com/c/dam/en/us/products/collateral/security/anyconnect-og.pdf> を参照してください。

